
夏のリコチャレ 2021 について



夏のリコチャレ2021 開催実績

●夏のリコチャレ2021 開催実績

参加団体数：59 企業：24 大学等：22 学術団体・その他：13

イベント数：113 オンライン：69 実地（オンラインとの併用含む）：44

参加者数：6,300名以上（アンケート提出44団体分）

【参考】

●夏のリコチャレ2019開催実績

100団体179イベント

約36,000名が参加

- ・新型コロナ感染拡大の影響により、各団体がこれまで企画してきた形態でのイベント実施が困難となり、参加を見合わせた団体が多かったと推測できる。
- ・過去には数千人規模や1万人超の参加者数を誇る大規模な実地型イベントを実施する団体が企画を見合わせ、小規模での開催となる傾向が多かった。
- ・一方で、オンラインイベントを得意とする新規団体の参加や、オンラインにより地域に縛られない参加者を得た団体もあり、可能性を広げた試みとなった。

夏のリコチャレ2021 ～理工系のお仕事を体感しよう！～

内閣府・文部科学省・日本経済団体連合会の共催で、夏休み期間を利用して行われる主に女子中高生等を対象とした、企業・大学・学術団体等のイベントを取りまとめて発信

職場見学、工場見学、シンポジウム、実験教室、先輩女性社員との交流等



夏のリコチャレ 2021
～理工系のお仕事体感しよう！～
内閣府・文部科学省・経団連共催

① ② オムツには“機能”を持った素材が使われています。

皆さんはいつ見つけれられるでしょうか？
実際のオムツに触って考えてみましょう！

[P&G] Yoko Amasaki (主催者)

P&G明石工場「夏のリコチャレ 2021 ～理工系のお仕事をのぞいてみよう～」オンライン実験教室

仕事紹介

◇工場の排水処理において、省エネや廃棄物削減につながる技術の導入を検討しています
◇ラボ装置やパイロット設備を用いてデータを取り、工場排水を処理する最適な条件を調べています

工場 → 排水 → 排水処理設備 → 処理水 海へ放流

エネルギーが必要 (電気・重油など) → CO2排出量 多 → 肥料原料として引き取ってもら

省エネとなる排水処理技術の導入に向けスケールアップ検討を担当

【期待できるCO2削減効果】
約50%削減

SDGsに貢献できる技術

大阪府立大学、関西科学塾コンソーシアム「女子中高生のための関西科学塾」理系の先輩の仕事紹介

理系を志すきっかけの出来事

- 遺伝子組み換え野菜やバイオテクノロジー等に興味があった。医者として人を救うというよりは、研究者になって世の中を変える凄いものを作りたいかった
- 中学の夏休みに植物からDNAを取り出すイベントに参加した
→遠心分離機を使ったDNA抽出実験で、ピペッターなどの操作が楽しかった
- 得意科目は国語、生物、化学
- 苦手科目は数学、物理・・・

(大阪府立大学、関西科学塾コンソーシアム)「女子中高生のための関西科学塾」理系の先輩の講演



東亜合成「夏のリコチャレ2021～化学ってスゴイ！化学会社のお仕事体験！～」オンライン実験教室

夏のリコチャレ2021 アンケート結果 ①

- ◆夏のリコチャレ2021イベント実施団体向けアンケートより、集計
 - ・アンケート対象：夏のリコチャレ2021実施団体59団体（うち、有効回答数44団体）

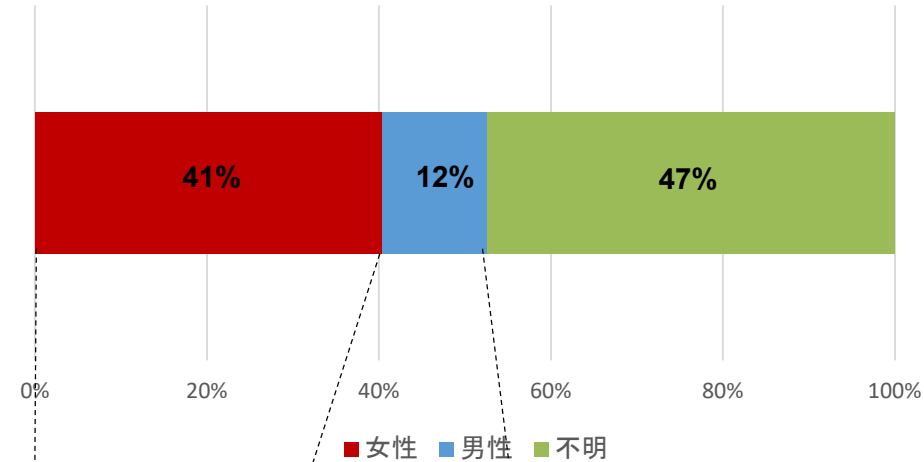
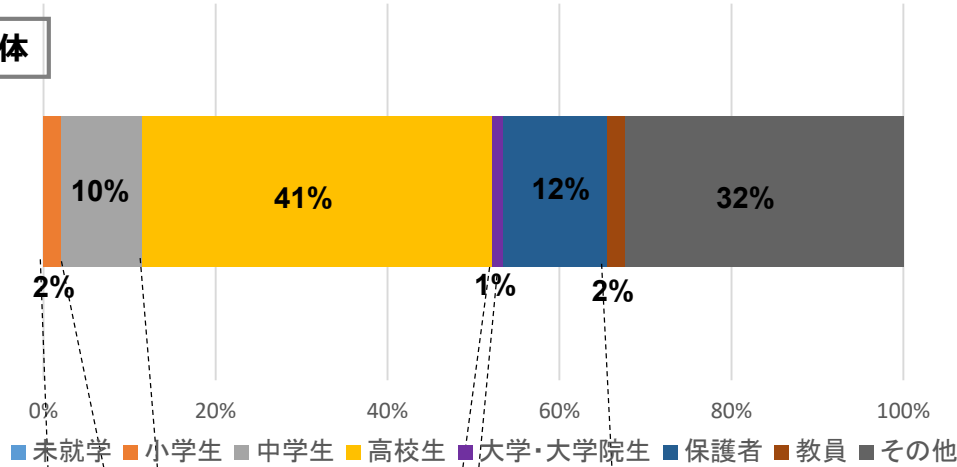
I. 参加者

年齢

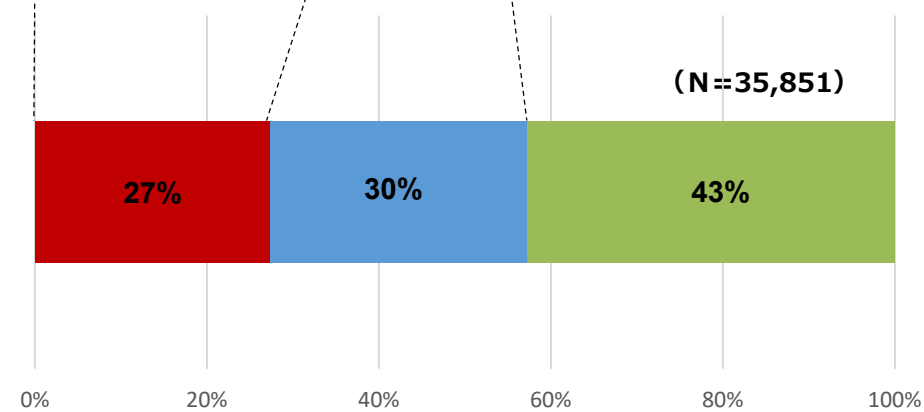
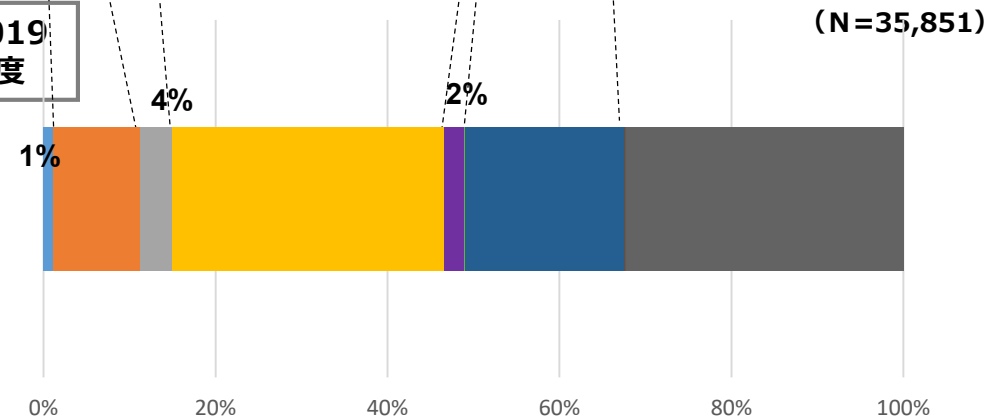
(N=6,324)
※左グラフの内数

性別

全体



2019年度

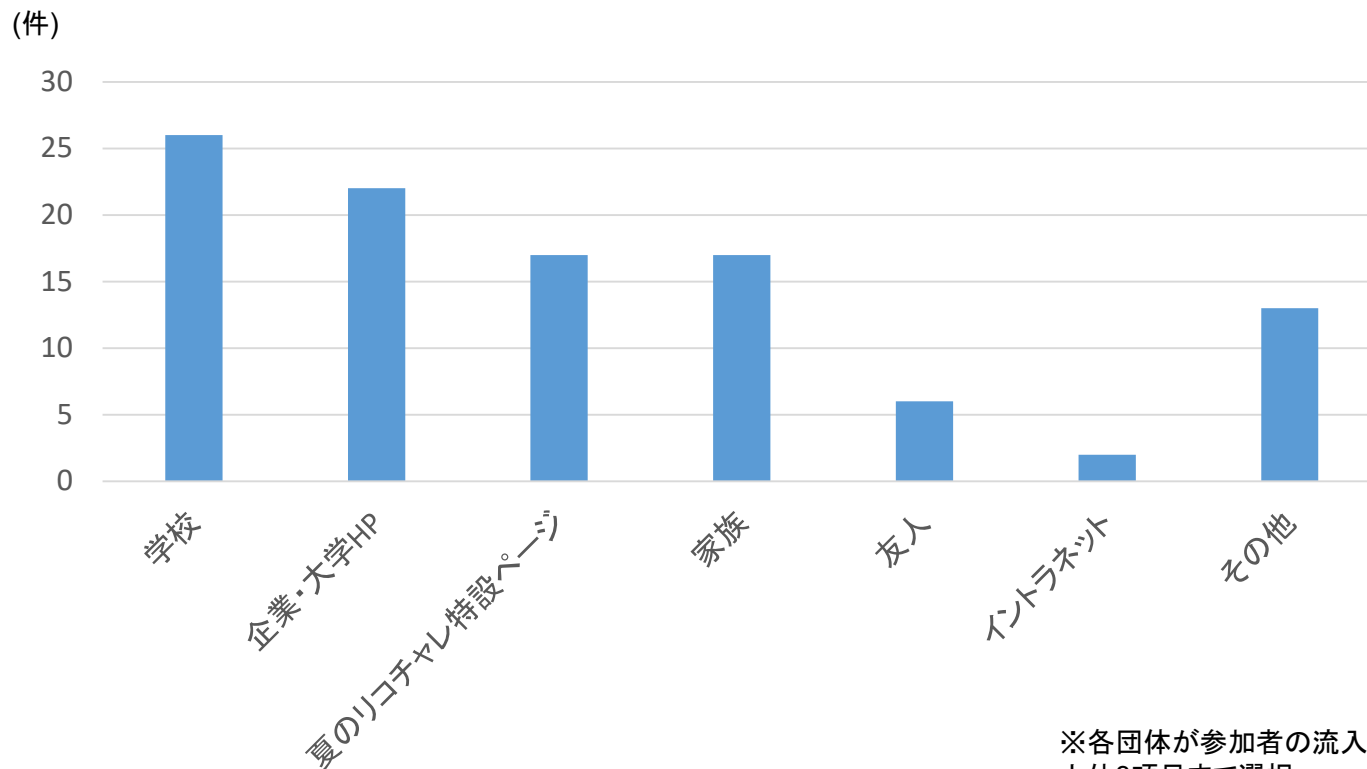


参加者の属性について中高生の合計：36%⇒51%、女性割合：27%⇒41%となり夏のリコチャレの主旨が企画へ浸透してきたと言える。

夏のリコチャレ2021 アンケート結果 ②

- ◆夏のリコチャレ2021イベント実施団体向けアンケートより、集計
 - ・アンケート対象：夏のリコチャレ2021実施団体59団体（うち、有効回答数44団体）

II. 参加者の流入経路



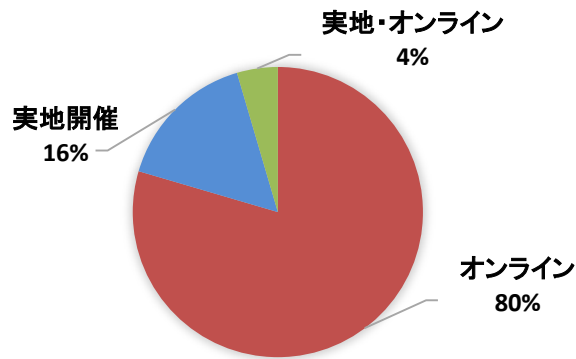
学校からの案内が最も効果大きい。次いで企業・大学等HP、家族、夏のリコチャレHPと続いており、幅広く広報していく手法が有用と思われる。

夏のリコチャレ2021 アンケート結果 ③

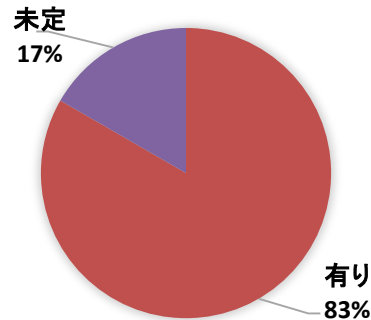
- ◆ 夏のリコチャレ2021イベント実施団体向けアンケートより、集計
 - ・ アンケート対象：夏のリコチャレ2021実施団体59団体（うち、有効回答数44団体）

Ⅲ. 実施形態

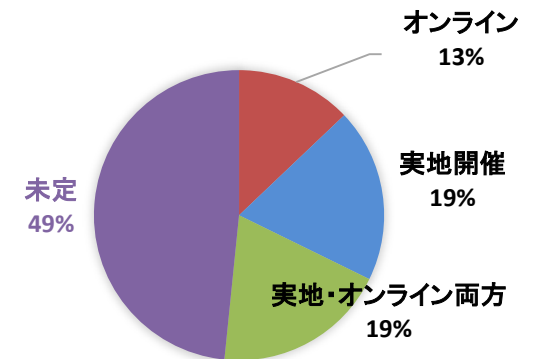
2021年度実施形態(団体別)



2022年度の実施予定



2022年度の実施形態予定



2021年度実施形態	⇒2022年度実施形態予定	数
	実地開催	4
実地開催	⇒実地・オンライン	0
	オンライン	0
	実地開催	1
実地・オンライン	⇒実地・オンライン	1
	オンライン	0
	実地開催	1
オンライン	⇒実地・オンライン	5
	オンライン	5

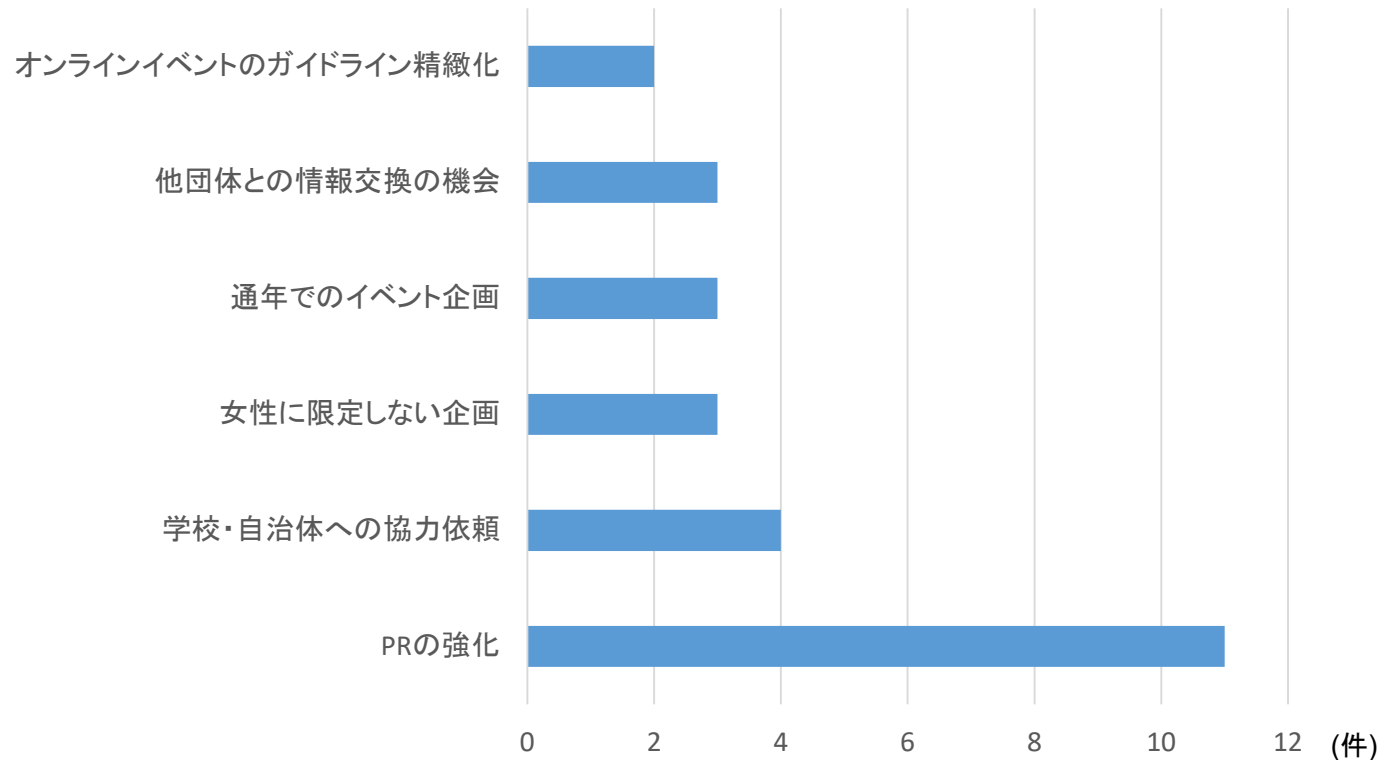
※2022年度の実施予定「有り」且つ
2022年度の実施形態予定「未定」以外を集計

今年度はオンラインでの開催を工夫された団体が多い。
一方で、次年度では実地開催を希望する団体が多い。

夏のリコチャレ2021 アンケート結果 ④

- ◆夏のリコチャレ2021イベント実施団体向けアンケートより、集計
 - ・アンケート対象：夏のリコチャレ2021実施団体59団体（うち、有効回答数44団体）

IV. 内閣府・文科省・経団連への要望



政府による広報活動への期待が特に大きい。
企画の対象・時期についても整理検討する必要がある。

V. 参加者の声（一部抜粋）

企業

- 社員の方のお話の後、沢山質問の時間をとってくださったことが、とてもありがたかったです。もう少し大学生の時の話を聞けたらよかったですと思いました。(生徒・学生)
- 映像を通して初めて工場の様子を働く人の観点から見る事が出来、**実際の仕事についての考えを深められました。**(生徒・学生)
- **働いている女性社員の方々の話も興味深く、建築や土木で働いている女性の方のお話を聞くのは初めてだったので、面白かったです。**(生徒・学生)
- 思っていたよりも少人数で質問しやすかったので良かったです。**女性ならではのことや、育休・産休など仕事以外のことも話していただき、ありがとうございました。**(生徒・学生)
- オンラインイベントに初めて参加したが、**リアルな工場見学より近くの様子が見れて良かった。**(生徒・学生)
- 将来を考えると大きな力になると思う。(生徒・学生)
- 登壇した**女性社員がどのような経験をし、どのような経緯で進路選択をしてきたのか**伺うことができたのが良かった。良い進路選択ができるよう頑張りたい。(生徒・学生)
- 人見知りの子供が自ら質問したり楽しんでおりました。ありがとうございました。(保護者)
- **「実地開催」を望む声が多く寄せられた。**実際に近くで見て触って、体験・体感できるとより理解が深まるという意見があった。一方、東は岩手、西は宮崎まで幅広い地域の方が参加されていて、地方の皆さまからは、**オンラインなので気軽に参加できて有り難かった**という声も多く寄せられた。(企業)

大学等

- 本イベントにより**科学や理系進学への意欲がより高まった。**(生徒・学生)
- 座学だけでなく、実習がとても充実していて非常に楽しい時間を過ごさせて頂きました。やはり、**自分の目で見てふれて肌で感じるというのも知識の理解に大きな手助けとなるということ**を改めて感じられた絶好の機会でした。(生徒・学生)
- コロナの影響で、**学校では実験があまりできていなかった**ので、顕微鏡をじっくり触れることができてよかった。(生徒・学生)
- 理系は専門的で難しい印象でしたが、**女性研究者が専門分野のことを楽しそうに話す様子に憧れました。**(生徒・学生)
- 大学生の研究を実際に聞くことができ、嬉しかったです。また、**自分の研究に誇りを持っている様子が伝わってきて、自分もそんな人になりたい**なおもいました。(生徒・学生)
- 女子大学生の方に質問にこたえていただいて、すぐく参考になったし、少し前向きになれました。(生徒・学生)
- オンラインのため中間テスト前でも参加できた。(生徒・学生)
- **女子学生が活躍していることや、女子学生をバックアップする体制ができてい**ることがわかり、娘が入学できたら良いという思いが高まりました。(保護者)

学術・研究機関等

- 今まで理科が苦手だったが**今回の講座で理科に興味**がでてきた。これからは理科の授業も楽しんで受けようと思う。(生徒・学生)
- やはり、実際に見て触れて体験したい。**来年は、同じ企画でもよいので是非体験したい。**(生徒・学生)
- 今まで将来について考えることから目を逸らしてしまっていたけれど、**自分自身と向き合うとても良い機会**になりました。(生徒・学生)
- 講演の内容に感銘を受けた。**無意識のバイアスがあることを意識して、今後の教育に取り組んでいきたい。**(教員)

今後の課題及び対応

●より一層の多様なイベントの開催促進

リコチャレ応援団体は年々増加しているが、新型コロナウイルス感染拡大によりイベント企画を見送った団体も多かった。オンラインイベントの実績等を各団体に共有し企画を後押しする。一方で、理工系女子応援ネットワーク会議においてはオンラインのデメリットやリスクの意見も確認され、これらの情報を整理して各団体へ周知を行い改善を促していく。また、大学進学、就職等様々な場面における理工系進路選択者の状況に触れる機会を提供する。

●保護者への働きかけの強化

女子生徒・学生の進路選択に影響を与えられとされる保護者への働きかけを併せて行う。

●教育現場を通じた取組の周知及び関係機関の相互連携の強化

HP上の露出増加やメルマガによるPRの頻度を増加させる。また、学校現場の負担も勘案しつつ、各教育委員会に対する周知内容や方法を工夫する等、今後、文科省と連携して協議・検討する。

イベントを企画する大学・企業・学術団体の相互連携や、近隣の教育委員会・地方公共団体との連携を強化する。今年度の理工系女子応援ネットワーク会議においては、自治体担当者の参加を求めた上で、企業と自治体の連携の好事例※を紹介した。

※アマゾン・データサービス・ジャパンのオンライン講演・ワークショップを長野県池田町が公民館でパブリックビューイング形式で実施した。

●地域性の影響に関する対応

都市部と地方部では、イベント等への参加の容易さや情報量に差がある。オンラインイベントの利点を生かして地域差を埋めていく。また、地域性が進路選択に与える影響について、調査研究を行い、今後のフォーカスエリアの選定につなげる。